

URAが活躍するための原動力と機能：URAの定着に向けて改めて問う

主催：奈良先端科学技術大学院大学研究推進機構

2022年2月25日（金）

# 京都大学学術研究支援室（KURA）における 特色ある取り組み

オープンサイエンス推進支援

京都大学

京都大学学術研究支援室（KURA）

リサーチアドミニストレーター

天野絵里子

*KURA*



## リサーチ・アドミニストレーター (URA) (2014-現在)

- 学内ファンド、URA研修プログラム
- 人文・社会科学系研究の支援 (新刊情報ポータル)
- 研究データ管理 (ポリシー、葛ユニット)

## 元・図書館職員 (1998-2014)

- 京都大学、九州大学、国際日本文化研究センター
- 図書館システム (OPAC、ウェブサイト)、学修支援、リポジトリなど担当
- オープンアクセスの推進

## 博士 (技術経営)、MBA

### オープンサイエンス

研究成果の発信  
大学の成果発信基盤



### 資料の蓄積・共有

デジタル化  
オープン化  
アーカイブ化

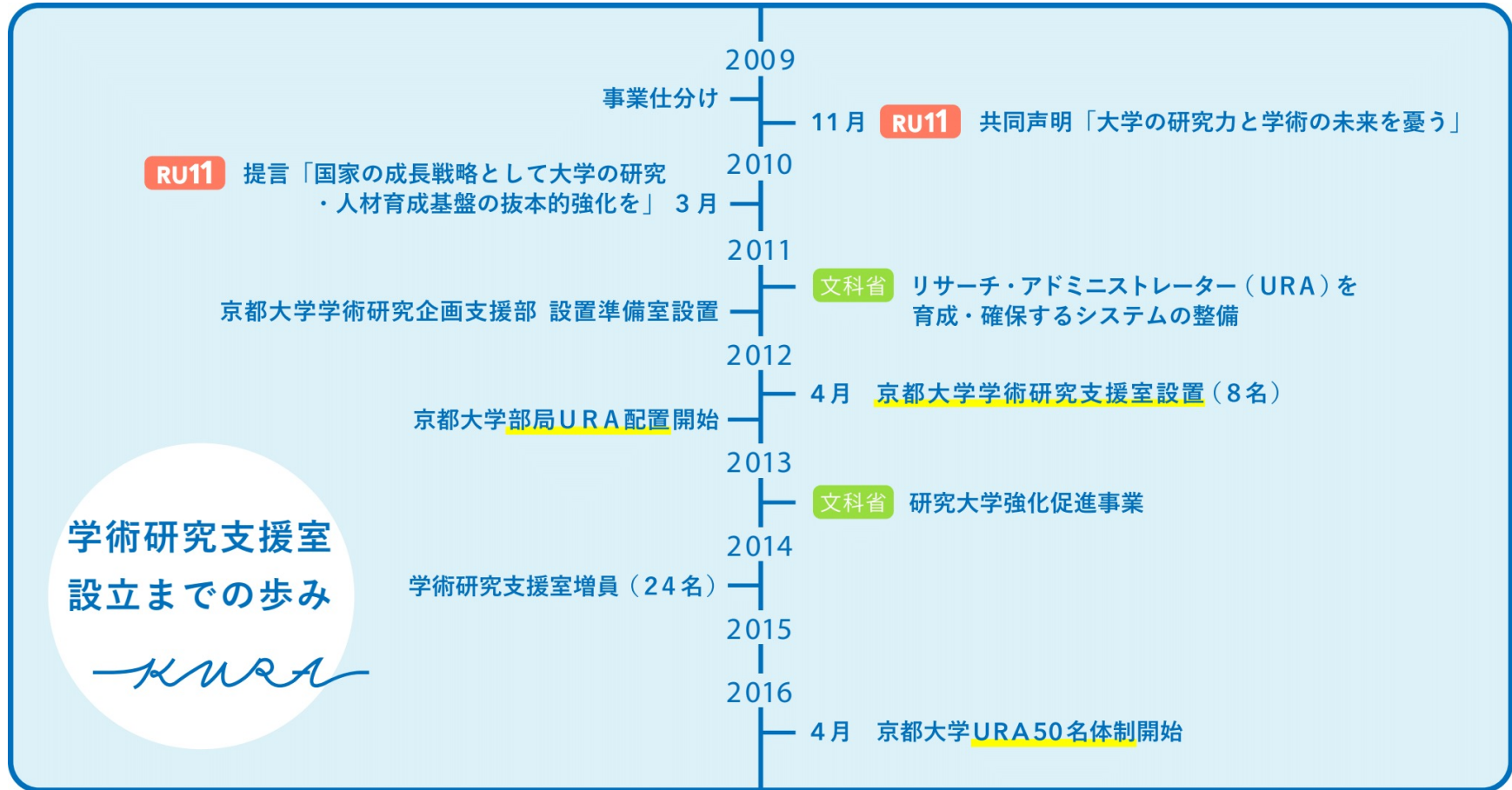
京都大学の卓越した知の創造活動を研究者の視点に立って  
学問・社会を発展させる力に変える

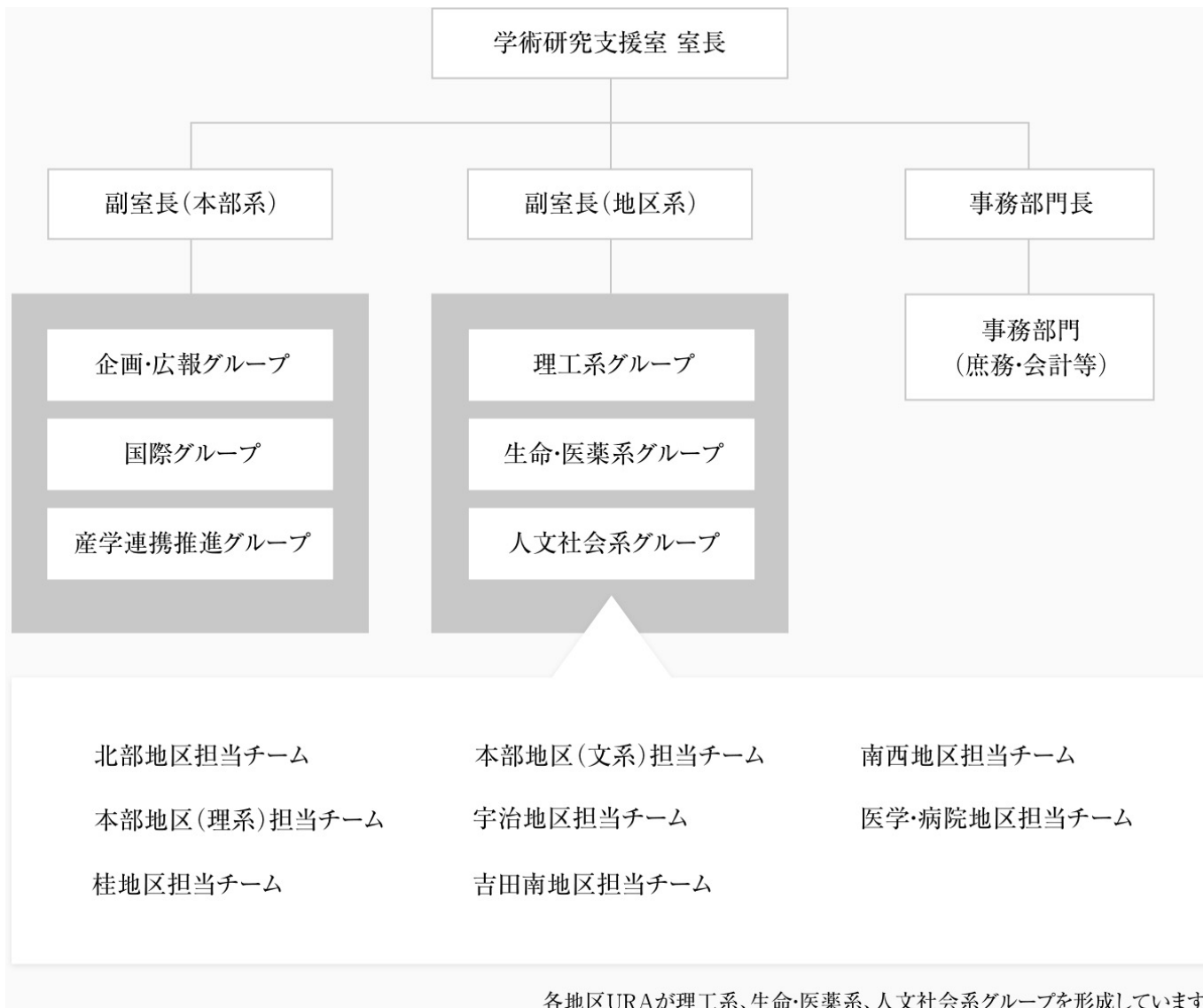
KURAのビジョン

<https://www.kura.kyoto-u.ac.jp/about/vision/>

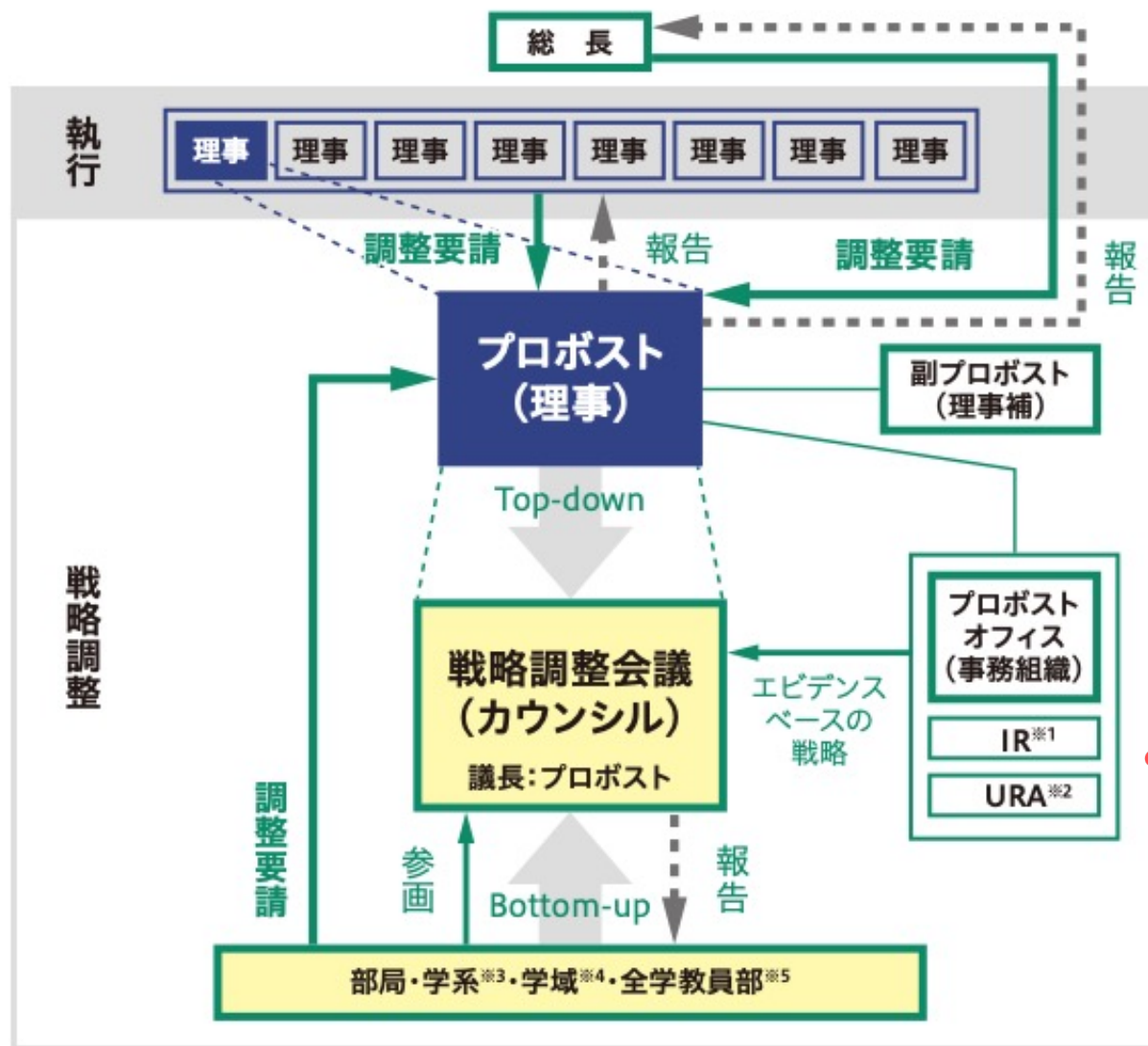


紹介動画 (約8分)





# プロボスト制への貢献



# カタリスト（触媒）としてのURA



## ● オープンアクセス

- オープンアクセスジャーナル投稿料支援制度「みちびき」の運用
- 図書館のオープンアクセス化の実施

## ● 研究データ管理（RDM）

- 学内の基盤形成支援
- RDMに関する研究支援

## ● クラウドファンディングによる研究推進



オープンアクセス

## 背景・問題点

- オープンサイエンスを推進したいが・・・
  - 高騰する論文投稿料（APC）が、良質でハイインパクトなオープンアクセスジャーナルへの投稿を阻害
- 研究において公正な出版活動が求められるが・・・
  - 十分な査読をせずAPCを徴収する粗悪学術誌・出版社が横行



## 本事業の目的

- 研究大学強化促進事業の一環として、本学の研究者がオープンアクセスジャーナルへ投稿し、掲載された・する優れた論文に対する投稿料（APC）を助成することにより、本学のオープンサイエンスを推進
- 近年問題となっている、粗悪な出版社のジャーナルに対する注意喚起を行い、公正でオープンな出版活動を効果的に啓発

## 2020年度試行結果にもとづき2021年度より本実施

## 支援の成果

2020年度試行

助成件数

**74**件

論文のオープンアクセス化という現在の科学界の重要なトピックのひとつを応援するものであり、大変ありがたい制度です。

オープンアクセス化は重要ではあるものの、近年のAPCは過剰なまでに上昇している傾向にあります。本事業によって、多くの研究者の論文がより多くの人に見てもらえることができるチャンスになります。

本事業は、多くの研究者がオープンアクセスを経験し、他の研究者とのつながりを促進するなどのメリットをもたらすため、とても有益です。

研究者から本事業に対して寄せられた声

# 人社系海外出版書籍のオープンアクセス化事業

## 目的

人社系研究分野の研究成果が参照される機会を増やし、世界的プレゼンスの向上につなげる

## 実施結果

下記の**図書のオープン化費用を助成**

2019年度 試行

- Brill社1冊、Routledge社16章

2020年度 指定国立大学構想の一部「人文・社会科学の未来形発信」の事業として実施

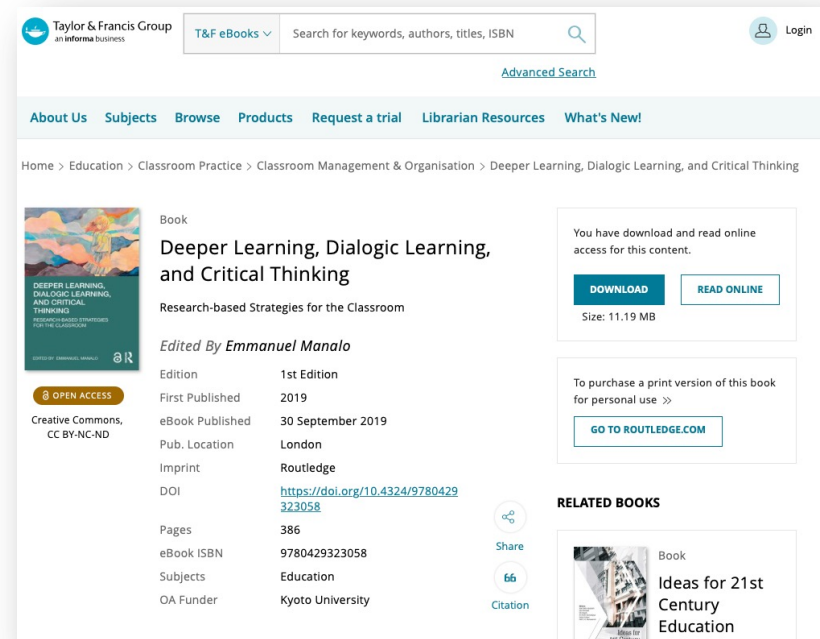
- Brill社：単行本1冊
- Routledge社：単行本6冊、章1章
- Springer社：単行本2冊、章4章

合計9冊 5章

2021年度も継続

## 効果

- 有償の書籍にアクセスしにくい学生や研究者を含め、世界中の読者に貴重な研究成果を届けることが可能となる（図書館検索システムや出版社サイトからダウンロードが可能に。AmazonでもKindle版 ¥0） → **コロナ禍対応、SDGs**
- 隣接する分野の研究者や共同研究を視野に入れている研究者も容易に研究成果を参照できる → 国際共同研究への発展が期待される



OA化でダウンロード回数は10倍以上に

# 研究データ管理 (RDM)

2021年3月

## 第2章 Society 5.0 の実現に向けた科学技術・イノベーション政策

> 2. 知のフロンティアを開拓し価値創造の源泉となる研究力の強化

> (2) 新たな研究システムの構築(オープンサイエンスとデータ駆動型研究等の推進)

### (a) 現状認識

- データ駆動型研究の拡大。研究のDX
- データ利活用のインフラは整備されてきたがまだ不十分

### (b) 方向性と目標

- オープン・アンド・クローズ戦略に基づいた研究データの管理・利活用を進める環境整備

### (c) 具体的な取り組み

- NII Research Data Cloudの普及
- 研究開発を行う機関は、データポリシーの策定を行うとともに、機関リポジトリへの研究データの収載を進める
- 公募型の研究資金の新規公募分において、2023年度までに、データマネジメントプラン(DMP)及びこれと連動したメタデータの付与を行う仕組みの導入
- 研究者の研究データ管理・利活用を促進するため、データ・キュレーター、図書館職員、URA…等の人材について2022年度まで方向性を定める。
- 2022年までに、これらの取組の状況を、研究者、プログラム、機関等の評価体系に導入する。



研究者以外のステークホルダーをもれなく想定し、それぞれの役割に応じて全学レベルの研究データ管理に取り組んでもらう体制をつくる



- 研究担当理事や副学長のリーダーシップのもと、研究データ管理を主幹する委員会等を設定
- 業務を実施する責任・技能を備えたメンバーで構成された研究データ管理チームを設置

## 図書館機構が事務局となり、ワーキンググループを主導

### 2019年度

- 「京都大学研究データ管理・公開**ポリシー**」の策定

2020年3月19日 研究者情報整備委員会 承認

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research/research-policy/kanrikoukai>

### 2020年度

- 「部局等研究データ管理・公開実施方針 策定ガイドライン」
- 「部局等研究データ管理・公開実施方針 ひな形」の策定

### 2021年度

- 研究データ管理・公開促進ワーキンググループ
  - **学内体制の検討**
  - **RDMの研究者向けセミナーの検討**

## アカデミックデータ・イノベーションユニット (通称：葛ユニット)

ユニット長：梶田将司教授 (学術情報メディアセンター)

京都大学の研究者の研究活動によって生み出される多様なアカデミックデータを適切に蓄積・共有・公開および長期保管するデータマネジメント環境を調査研究

科研費・基盤研究A 2020-04-01～2023-03-31

「多様な学術研究活動を育むアカデミックデータ・イノベーション成熟度モデルの開発」

第7回京都大学研究データマネジメントワークショップ  
eポートフォリオと RDM スキル開発

2022年3月4日 (金) オンライン開催



# データ管理計画（DMP）の作成支援に向けて

科学技術振興機構（JST）2017より

- CREST
- さきがけ など

新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）2018より

日本医療研究開発機構（AMED）2018より

環境再生保全機構（ERCA）2020より

内閣府

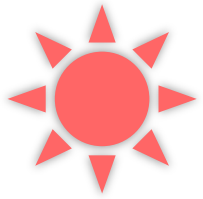
- ムーンショット型研究開発制度（2020）

日本学術振興会

- 科学研究費助成事業（科研費）2020より ※大型種目
- 令和6（2024）年度より全ての研究種目において採択された研究課題でDMPの提出を求める予定（令和3年度QAより）

**DMPの書き方、RDMに関する情報提供、オープンサイエンスのアドボカシー**

[https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/06\\_jsps\\_info/g\\_210709\\_2/data/r3setsumeikai\\_faq.pdf](https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/06_jsps_info/g_210709_2/data/r3setsumeikai_faq.pdf)



研究成果を使ってもらいたい  
イノベーションを起こしたい  
科学を発展させたい  
評価されたい

ボトムアップ

研究者の視点に立って

FAや政策の要請に対応

トップダウン

DMP

研究公正

研究費助成

政策による推進

ポリシーによる義務化



研究データ管理が課されれば、研究者の負担が減ることはない。  
研究者の負担が最小限になる基盤整備と、アカデミアが根源的にもつオープンサイエンス志向を刺激する施策を組み合わせ、**URAならではのオープンサイエンス推進**を。

A stylized, handwritten signature in black ink that reads "KURA". The letters are connected and fluid, with a long horizontal stroke extending from the left side of the 'K'.

[amano@kura.kyoto-u.ac.jp](mailto:amano@kura.kyoto-u.ac.jp)